

開 会 式

11/18

木

開会式

基調講演

パネルディスカッション
メインテーマ

鎌倉の取組紹介

パネルディスカッション
サブテーマ①

11/19

金

パネルディスカッション
サブテーマ②

パネルディスカッション
サブテーマ③

引継式

特別講演

パネルディスカッション
まとめ



開 会 式

令和3年11月18日（木）10:30～11:00

主催者挨拶 **松尾 崇氏**
鎌倉市長

来賓祝辞 **古賀 篤氏**
厚生労働副大臣

黒岩 祐治氏
神奈川県知事

中村 聡一郎氏
鎌倉市議会議長

主催者挨拶

鎌倉市長 松 尾 崇 氏



皆さん、おはようございます。鎌倉市長の松尾崇です。本日は「第3回地域共生社会推進全国サミットinかまくら」にご参加をいただきまして、誠にありがとうございます。市民を代表しまして、皆様を心から歓迎を申し上げますとともに、本日ここにこうしてサミットが無事に開催できますこと、この開催に当たりまして、ご尽力をいただきました多くの皆様方に、まずはこの場をお借りしまして、心より感謝を申し上げます。

この全国サミットですけれども、第1回目は3年前、長久手市で開催をされました。私も参加をさせていただいたんですけれども、子供たちが入り口で大勢出迎えてくれまして、そしてまた大変地域の方々が温かくお出迎えをしていただいたというのが印象的でした。そして第2回目は秋田県の湯沢市で2年前に開催をされました。こちらもまち全体を挙げて、全国からお客様をおもてなしをするという、こういう心意気というものが伝わってまいりまして、本当に楽しい2日間を過ごさせていただいた。またこのサミットでも大変有意義な講演を聞かせていただきました。

そして、鎌倉は第3回目に手を挙げさせていただいて、本来であれば昨年の10月に開催

をする予定でありましたが、ご案内のとおり、このコロナという状況の中で、1年延期をさせていただき、またこのオンラインという形での開催ということになりました。オンラインということですので、現地に行けなかった、参加できなかった方も、これを機会に多くの方に参加をしていただいて、このサミットの発信ということを皆さんにお伝えできる、そういうこの第3回目にできればなというふうに思っています。

そして、私ごとにもなりますけれども、このサミットを通じて本当に様々な学びや気づきをいただいております。特に第1回目、長久手市の吉田一平市長さんのご挨拶や、このサミットの中でですけれども、この吉田市長も様々な信念を持って取り組まれている中では、人と人の人付き合いの煩わしいというのはある。しかしながら、その煩わしさの先にこそ、本当の幸せがあるということを、このサミットの中のテーマとしても語られていたということをよく覚えております。

また、行政が進めていく様々な施策があるけれども、決して近道をするのではなくて、あえて遠回りをして、多くの人たちを巻き込んでいくというようなことも、そのメッセージとして発信をされていまして。私自身、行政を進めていく中でも、効率性ですとか、より自分にとって利便性のあるものみたいなことを、自然と選択していた部分もあったなというようなことを気づかせていただくなど、本当に様々な学びをいただいたところで、このサミットの有意義な機会を、より多くの方に知っていただきたいというふうに感じているところです。

そうした気づきもある中で、実は鎌倉市としましては、2年前に「鎌倉市共生社会の実現を目指す条例」というものを制定をさせて

いただきました。こちらは市民一人一人がお互いを尊重し合い、支え合い、多様性を認めて自らが望む形で社会との関わり合いを持って、生涯にわたって安心して自分らしく暮らせることのできる社会を実現するということが目的とした条例であります。言葉で言ってしまうとそうなのかというふうに思うところでもありますけれども、これを実際に実現をするというのは、大変難しいということを感じながら、この条例もつくって終わりということではなくて、鎌倉としてはまさにこの共生社会をつくっていくということを日々チャレンジをしているところです。つつい会話の中でも、「それって当たり前だね」「それって普通だね」という言葉を使ってしまうがちですけれども、その当たり前や普通は、その人にとっての当たり前であって、決して万人にとっての当たり前ではないということを私自身も常に肝に銘じながら、こうした取組を進めているというところです。

そして、鎌倉市としては、この条例を機軸としまして、新しいテクノロジーなどの取組も組み合わせながら、官民一体が共生社会をつくっていく「共創」。共に創る取組ということも進めています。全ての世代が多様性を受け入れて、心豊かに過ごすことができるwell-beingのまちへと、さらに変革していくということを目指しているところです。

今回、第3回目のサミットのテーマですけれども、「いざ、共生・共創～安心して自分らしく暮らせるまちをともにつくる～」というふうになりました。このコロナ禍を経験した、まさにこれからの時代においても、誰もが安心して自分らしく暮らせる社会を共創により実現していくという、こういう思いを込めてこういうテーマにさせていただいたところです。今回はこのテーマに沿って、各分野にお

いて、制度の縦割りを力強く横断しながら、新しい価値をつくり出している。こういう講師の方々をお招きをして、これから議論をしていただきたいというふうに考えているところです。

まず、基調講演としてデジタル庁顧問であります村井先生から、「安全・安心なデジタル社会の創成」と題してお話をいただきます。令和2年、デジタルの活用により一人一人のニーズに合ったサービスを選ぶことができ、多様な幸せが実現できる社会をビジョンとするこのデジタル改革の基本方針が閣議決定されて、誰一人取り残さない、人に優しいデジタル化を進めることが確認をされたところです。デジタル社会と国の目指す地域共生社会との将来像というものを論じていただきまして、人の暮らしを自然な形で補うテクノロジーを取り入れながら、共生社会をどのように構築していけるのか、これからの取組や社会の在り方を考えるに当たってのヒントをいただけます。

また、その後も様々な分野の第一線で活躍をされる講師の皆様から、テーマごとにパネルディスカッションで議論を深めていただく予定としております。

第1回目、第2回目の全国サミット、本当に素晴らしい内容でしたので、それにまさるといってはなかなか難しいかもしれませんが、鎌倉のこの第3回目としても、この時代に合わせた形で、今この日本の共生社会を目指していくのに必要な講師陣をお招きし、皆様方により多くの気づきをいただけるのではないかなというふうに思っているところです。

さて、鎌倉は古都として知られるまちでありますけれども、新しいものを積極的に受け入れて価値を築いてきたという、こういう歴史も同時に併せ持っているまちでもあります。

具体的には、例えば日本で最初に本格的な禅を取り入れたのが鎌倉市内にあるお寺の一つである建長寺です。日本で初めての本格的な禅宗道場として、当時においては禅の導入というのは大変革新的でありました。しかしながら、それからこの800年の間、引き続き革新ということを連続させることによって、こうした伝統も引き継いできたというふうに言われています。

また、夏になりますと、多くの観光客で賑わう海水浴場というものも持っております。この海水浴場の歴史も130年以上というものがありまして、当時は療養や文化活動を目的に、長期滞在する、今日で言うところの交流人口を中心に花開いた別荘文化とともに発展をしました。当時の目新しさとともに受け入れられた洋風建築や生活様式、おもてなしの心は、現在におきましても観光客を魅了し続けています。それらがこの鎌倉にとっては過去の遺産ということではなくて、今も生きた文化としてこの地に残っていること、その背景に時代ごとの新旧の融合が存在していることが鎌倉の魅力であるというふうに考えております。

本日と明日と2日間にわたりまして、サミット開催をしております。ぜひ本サミットにおいて活発な議論が展開され、これからの地域の在り方について皆さんとともに考える契機となり、全国における地域共生社会の実現に向けた取組がより一層邁進されるということを願っております。鎌倉としましても、その発信源の一つとして、この共生社会への取組、全力でこれからも取り組んでまいりたいというふうに考えております。

最後になりますけれども、ご参加の皆様方の地域がますます発展をされますこと、そして本サミットが成功しますこと、このことを

祈念を申し上げさせていただきます、冒頭の私の挨拶とさせていただきます。どうぞ2日間、よろしくお願いいたします。

来賓祝辞

厚生労働副大臣 古賀 篤 氏



皆様、こんにちは。厚生労働副大臣の古賀篤です。本日「第3回地域共生社会推進全国サミットinかまくら」が、多くの皆様にご視聴いただき、盛大に開催されますことを心からお喜び申し上げます。また、サミットの主催者である鎌倉市及び実行委員会の皆様に対し、新型コロナウイルス感染拡大防止の観点から、開催に当たり創意工夫を重ねられたことに、心から敬意を表します。

我が国の社会福祉に目を向けますと、少子高齢化が急速に進行し、人口減少に直面するとともに、単身世帯の増加など家族の在り方や地域社会も変化する中で、個人や世帯の抱える課題が複雑化・複合化しています。こうした中、各地域においては、制度・分野ごとの縦割りや、支え手・受け手という関係を越えた創意工夫ある取組が育ってきています。

鎌倉市においても、平成31年4月に施行した鎌倉市共生社会の実現を目指す条例に基づき、農業就労体験を通じた社会参加のきっかけづくりや、地域の課題から物やサービスを

つくり出す鎌倉リビングラボの取組など、住民一人一人が主役となり、地域の力で課題解決を目指した様々な取組が進められていると伺っております。

また、厚生労働省においても、市町村の皆様には地域住民の複雑化・複合化した支援ニーズに対応する包括的な支援体制を整備いただけるよう、属性を問わない相談支援、多様な参加支援、地域づくりに向けた支援、この3つを一体的に実施する重層的支援体制整備事業を創設し、この4月からスタートしました。この新たな事業の着実な推進をはじめ、自治体における包括的な支援体制の構築に向けたサポートを通じて、子供、高齢者、障害者など、全ての人々が地域、暮らし、生きがいをともにつくり、高め合うことができる地域共生社会の実現を目指してまいります。

今回のサミットでは「いざ、共生・共創～安心して自分らしく暮らせるまちをともにつくる～」というテーマにふさわしく、福祉分野以外も含め、多くの分野の方々の参加を得て、活発な意見交換が行われ、実りある2日間になるよう期待しています。

最後になりましたが、大会の成功と本日まで視聴いただいている皆様のご健勝、ご活躍をお祈りいたしまして、私の祝辞といたします。このたびは誠にありがとうございます。

来賓祝辞

神奈川県知事 黒岩 祐治 氏



皆さん、こんにちは。神奈川県知事の黒岩祐治です。本日「第3回地域共生社会推進全国サミットinかまくら」が盛大に開催されますことを心よりお喜び申し上げます。

鎌倉市は、平成31年に鎌倉市共生社会の実現を目指す条例を制定し、共生社会の実現に向けた取組を進めている自治体であり、ここでサミットが開催されることは、大変意義深いものであると考えています。

神奈川県では、5年前、県立の障害者支援施設である津久井やまゆり園で19名もの貴重な命が奪われるという、大変悲惨な事件が発生しました。このような事件が二度と繰り返されないよう、県では神奈川県議会とともに「ともに生きる社会かながわ憲章」を策定し、その理念の実現に向けて取り組んでいるところです。

また、私たちは事件を二度と繰り返してはならないという思いの中で、障害福祉の在り方について徹底的に見直し、あるべき姿について議論してきました。これまで障害者支援施設での支援は、利用者のためにという安全を優先した支援者の目線で長時間の身体拘束などが行われてきました。しかし、当事者との対話を重ね、考え続ける中で、これまでは

当事者目線という発想が欠けていたことに気づきました。当事者目線とは、一人一人の気持ちに目を向けて、相手の心の声に耳を傾けることではないかと考えています。そして、今月16日に、こうした私の考えを宣言として発信したところですが、このサミットにお集まりの皆様とも、ぜひ共有していきたいと思い、この場をお借りしてご披露させていただきます。

当事者目線の障害福祉実現宣言。津久井やまゆり園事件のような悲惨な事件を二度と起こさないために、私たちはこれまでの障害福祉の在り方を根本的に見直し、当事者目線の障害福祉に大転換することを誓います。それは、あなたの心の声に耳を傾け、お互いの心が輝くことを目指す障害福祉です。

私たちは、虐待は絶対に認めません。強度の行動障害の方に対して、周りの人や自分を傷つけるから、音や光などに過敏に反応し過ぎるから、長時間部屋に閉じ込めておく。車椅子に縛りつけておく。これまではそんな支援が当たり前のように行われていました。安全・安心のために、やむを得ずということでしたが、それは明らかに虐待です。虐待は絶対に許されることはありません。あなたは障害者である前に、人間です。人間だから、人間らしい扱いを受けるのは当然の権利です。

私たちは部屋に閉じ込められている当事者ご本人の目線に立って考えます。なぜあなたは周りの人や自分を傷つけるような行動をしてしまうのでしょうか。もしかしたら、あなたは自分の気持ちをうまく表せないだけかもしれません。自分の気持ちを聞いてほしいと訴えているに違いないと考えて接すれば、全然違ったサポートができるはずです。私たちは、そんなあなたの心の声に全身全霊で耳を傾けます。あなたの思いを受け止め、工夫を

しながらサポートします。そうすれば、きっとあなたは安心してくれるに違いない。それが私たちにとっても大きな喜びにつながるはずです。それがお互いの心が輝く障害福祉です。

施設は終の住処ではありません。あなたが地域の仲間たちとのつながりの中で暮らしていけるよう、一緒に考え、準備をする場です。そんな支援を実践しているところが実際にあります。別の施設は、部屋に閉じ込められていた人が生き生きと働く姿は感動的です。そういった成功事例を多くの関係者が学び、実践していけば、必ずや当事者目線の障害福祉は実現できるはずです。どんな障害があっても、支え合いと思いやりにあふれ、みんなの命が輝く、共に生きる社会を実現するべく、全力を尽くすことを誓います。宣言は以上です。

この道のりは簡単ではありませんが、県ではどんなときも相手の心の声に耳を傾け、思いを受け止め、皆さんと一緒に命輝く地域共生社会をつくり上げていきます。

結びに、本サミットの成功と地域共生社会の実現に向けた取組が一層推進されますことをご祈念申し上げ、お祝いの言葉とさせていただきます。

来賓祝辞

鎌倉市議会議員 中村 聡一郎 氏



皆様、こんにちは。鎌倉市議会議員の中村でございます。開催地の市議会を代表いたしまして、一言お祝いのご挨拶を申し上げさせていただきます。

本日は「第3回地域共生社会推進全国サミットinかまくら」にお招きいただきまして、誠にありがとうございます。この2年間、新型コロナウイルスは私たちの生活に大きな影響をもたらしました。本サミットにおかれましても、昨年の延期を経て、オンラインによる開催を新たにご準備され、無事開催の日を迎えられましたこと、心からお喜び申し上げます。また、実行委員の皆様をはじめ、各団体の皆様、そして関係者の皆様には、開催に当たりまして大変なご尽力をいただきましたこと、改めて敬意と感謝の意を表すところでございます。

鎌倉市は、共生社会の推進を掲げ、様々な取組を進めさせていただいているところでございますが、私ども市議会といった立場から、行政とともに、誰もが安心して自分らしく暮らすことのできる社会をつくるために邁進をしているところではございますけれども、今回のサミットを通じて全国の様々な取組を知り、また新たなつながりを築くことができ

たらと、大いに期待をさせていただいております。そして、今回のサミットが地域共生社会への理解をますます深め、全ての人が住み慣れた地域で自分らしく生活できる地域共生社会の実現に大きく寄与することを期待させていただきたいところでございます。

最後に、皆様方のご健勝、ご多幸、そしてさらなるご活躍をご祈念申し上げまして、私からのお祝いのご挨拶とさせていただきます。本日はおめでとうございます。